

JustoFit チュートリアル

シンプルな InDesign 文書を使って JustoFit を操作してみましょう。

JustoFit の自動組版調整や相互参照機能の理解に役立つことと思います。

●使用するファイル

チュートリアルに使用するファイルは 2 つあります。

- ・ JustoFit_tutorial.indd
- ・ JustoFit_tutorial_ref.indd

●ファイルの内容

JustoFit をインストールした InDesign CS2 でチュートリアルファイル JustoFit_tutorial.indd を開きます。

このファイルのボディページとペーストボードにタグ付きフレームがあります。

ボディページ上のフレームには、XML タグの付いたテキストがベタで流し込まれています。

基本動作画面 JustoFit には以下の画面があります。『段落メタ』パネル、『生成内容スタイル』パネル、『JustoFit 1 ライセンス登録』ダイアログボックス、『段落メタ』パネル、パネルメニューに「メタ書式の適用 ...」コマンドがあり、これを実行すると、文書内のすべてのメタ書式（段落メタ書式にかぎらず）が適用されます。このパネルを表示するには、「ウィンドウ」→「段落メタ」コマンドを選択してチェックを入れます。相互参照と内容生成 JustoFit には内容生成機能がそなわっています。相互参照は生成内容の一種です。InDesign CS2 には Adobe FrameMaker のような相互参照機能がありませんが、JustoFit のこの内容生成機能を利用することで、InDesign 文書でも相互参照を利用することができるようになります。内蔵生成内容スタイルプラグインの中には、いくつかの生成内容スタイルがはじめから内蔵されています。FrameMaker に内蔵されている相互参照書式と極力同じにしてあります。これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます。

生成内容スタイル名	生成例
[基本生成内容]	例：「ユニットバージョンについて」
page	例：1533 ページ
heading	例：ユニットバージョンについて
heading_and_page	例：1533 ページの「ユニットバージョン」

ペーストボード上のテキストフレームには xhtml:style という XML タグが付いています。この XML 要素は InDesign 文書の XML 構造の中にあり、JustoFit はその内容（文書の組版ルール）に従って書式設定や組版調整を行います。

以下の STEP 1 から 3 のチュートリアルは、ペーストボード上にあるテキストフレームの内容をすべて削除するところからスタートします。

<pre>doc, clause, subclause { display:block; } /*STEP 1 ① */ p { display:block; -un-pstyle:"body"; } /*STEP 1 ② */ doc > head { display:inline;</pre>	<pre>:-un-p.body_flow:-un-in-overset-story { -un-font-stretch-step:-2% ; -un-min-font-stretch:70; } /*STEP 3 ② */ :-un-p.body_flow1:-un-in-overset-story { -un-font-size-step:-1% ; -un-min-font-size:4; } /*STEP 3 ③ */ :-un-p.body_flow2:-un-in-overset-story {</pre>
--	---

注：実際には冒頭の 4 行は残しておいてください。文書内容に関する大きくなりとなる要素をブロックレベル（前後で改段落させる）とする設定です。

```
doc, clause, subclause
{
    display:block;
}
```

STEP 1 と 2 が終わると JustoFit_tutorial.indd は次のように組版されます。

基本動作

画面

JustoFit には以下の画面があります。

- 「段落メタ」パネル
- 「生成内容スタイル」パネル
- 「JustoFit 1 ライセンス登録」ダイアログボックス

「段落メタ」パネル

パネルメニューに「メタ書式の適用 ...」コマンドがあり、これを実行すると、文書内のすべてのメタ書式（段落メタ書式にかぎらず）が適用されます。

このパネルを表示するには、「ウィンドウ」→「段落メタ」コマンドを選択してチェックを入れます。

相互参照と内容生成

JustoFit には内容生成機能がそなわっています。相互参照は生成内容の一種です。

InDesign CS2 には Adobe FrameMaker のような相互参照機能がありませんが、JustoFit のこの内容生成機能を利用することで、InDesign 文書でも相互参照を利用することができるようになります。

内蔵生成内容スタイル

プラグインの中には、いくつかの生成内容スタイルがはじめから内蔵されています。

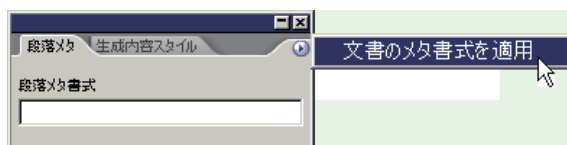
FrameMaker に内蔵されている相互参照書式と極力同じにしています。

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます。

生成内容スタイル名	生成例
[基本生成内容]	例:「ユニットバージョンについて」(1533 ページ)
page	例: 1533 ページ
heading	例: ユニットバージョンについて
heading_and_page	例:1533 ページの「ユニットバージョン」

では、xhtml:style タグが付いたテキストフレームに組版ルールを記述していきましょう。

以下、①や②の手順ごとに、ルールを記述したら JustoFit の「段落メタ」パネルのメニューで「文書のメタ書式を適用」コマンドを選択し、設定した書式が適用される様子を確認してください。



STEP 1 XML 要素に書式を設定する (チュートリアルファイル 1 ページ目)

①p 要素 (本文) に段落スタイル body を適用しましょう。また、要素のボックス種別をブロックレベルに設定し、要素の前後に改段落が入るようにしましょう。

```
p
{
    display:block;
    -un-pstyle:"body";
}
```

◎上記ルールの適用結果

基本動作

画面

JustoFit には以下の画面があります。

「段落メタ」パネル 「生成内容スタイル」パネル 「JustoFit-1 ライセンス登録」ダイアログボックス

「段落メタ」パネル

パネルメニューに「メタ書式の適用 ...」コマンドがあり、これを実行すると、文書内のすべてのメタ書式 (段落メタ書式にかぎらず) が適用されます。

このパネルを表示するには、「ウィンドウ」→「段落メタ」コマンドを選択してチェックを入れます。

相互参照と内容生成

JustoFit には内容生成機能がそなわっています。相互参照は生成内容の一種です。

InDesign CS2 には Adobe FrameMaker のような相互参照機能がありませんが、JustoFit のこの内容生成機能を利用することで、InDesign 文書でも相互参照を利用することができるようになります。

内蔵生成内容スタイル

プラグインの中には、いくつかの生成内容スタイルがはじめから内蔵されています。

FrameMaker に内蔵されている相互参照書式と極力同じにしています。

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます。

- ②一番大きな見出しに段落スタイル head1 を適用しましょう。不要な改段落が入らないよう、ボックス種別はインラインに設定しましょう。

```
doc > head
{
    display:inline;
    -un-pstyle:"head1";
}
```

◎上記ルールの適用結果

基本動作

画面

JustoFit には以下の画面があります。

「段落メタ」パネル「生成内容スタイル」パネル「JustoFit 1 ライセンス登録」ダイアログボックス

「段落メタ」パネル

パネルメニューに「メタ書式の適用 ...」コマンドがあり、これを実行すると、文書内のすべてのメタ書式（段落メタ書式にかぎらず）が適用されます。

このパネルを表示するには、「ウィンドウ」→「段落メタ」コマンドを選択してチェックを入れます。

相互参照と内容生成

JustoFit には内容生成機能がそなわっています。相互参照は生成内容の一種です。

InDesign CS2 には Adobe FrameMaker のような相互参照機能がありませんが、JustoFit のこの内容生成機能を利用することで、InDesign 文書でも相互参照を利用することができるようになります。

内蔵生成内容スタイル

プラグインの中には、いくつかの生成内容スタイルがはじめから内蔵されています。

FrameMaker に内蔵されている相互参照書式と極力同じにしています。

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます。

- ③ 二番目の見出しに段落スタイル head2 を適用しましょう。ボックス種別はブロックレベルとして前後に改段落が入るようにしましょう。

```
clause > head
{
    display:block;
    -un-pstyle:"head2";
}
```

◎上記ルールの適用結果

基本動作

画面

JustoFit には以下の画面があります。

「段落メタ」パネル「生成内容スタイル」パネル「JustoFit 1 ライセンス登録」ダイアログボックス

「段落メタ」パネル

パネルメニューに「メタ書式の適用 ...」コマンドがあり、これを実行すると、文書内のすべてのメタ書式（段落メタ書式にかぎらず）が適用されます。

このパネルを表示するには、「ウィンドウ」→「段落メタ」コマンドを選択してチェックを入れます。

相互参照と内容生成

JustoFit には内容生成機能がそなわっています。相互参照は生成内容の一種です。

InDesign CS2 には Adobe FrameMaker のような相互参照機能がありませんが、JustoFit のこの内容生成機能を利用することで、InDesign 文書でも相互参照を利用することができるようになります。

内蔵生成内容スタイル

プラグインの中には、いくつかの生成内容スタイルがはじめから内蔵されています。

FrameMaker に内蔵されている相互参照書式と極力同じにしています。

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます。

- ④三番目の見出しに段落スタイル subhead を適用しましょう。不要な改段落が入らないよう、ボックス種別はインラインに設定しましょう。

```
subclause > head
{
    display:inline;
    -un-pstyle:"subhead";
}
```

◎上記ルールの適用結果

基本動作

画面

JustoFit には以下の画面があります。

「段落メタ」パネル「生成内容スタイル」パネル「JustoFit 1 ライセンス登録」ダイアログボックス

「段落メタ」パネル

パネルメニューに「メタ書式の適用 ...」コマンドがあり、これを実行すると、文書内のすべてのメタ書式（段落メタ書式にかぎらず）が適用されます。

このパネルを表示するには、「ウィンドウ」→「段落メタ」コマンドを選択してチェックを入れます。

相互参照と内容生成

JustoFit には内容生成機能がそなわっています。相互参照は生成内容の一種です。

InDesign CS2 には Adobe FrameMaker のような相互参照機能がありませんが、JustoFit のこの内容生成機能を利用することで、InDesign 文書でも相互参照を利用することができるようになります。

内蔵生成内容スタイル

プラグインの中には、いくつかの生成内容スタイルがはじめから内蔵されています。

FrameMaker に内蔵されている相互参照書式と極力同じにしています。

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます。

- ⑤簡条書きの list 要素に対して、ボックス種別をブロックレベルに設定しましょう。また、簡条書きの中のそれぞれの項目となる item 要素（list 要素の子要素）では、::before 擬似要素を使って行頭にナカグロとタブを生成させましょう。そしてボックス種別をブロックレベルに設定し、段落スタイル list_item を適用しましょう。

注：タブはキーボードの Tab キーを押して入力します。

```
list
{
    display:block;
}
list > item::before
{
    content:"・ » ";
}
list > item
{
    display:block;
    -un-pstyle:"list_item";
}
```

◎上記ルールの適用結果

基本動作

画面

JustoFit には以下の画面があります。

- ・「段落メタ」パネル
- ・「生成内容スタイル」パネル
- ・「JustoFit 1 ライセンス登録」ダイアログボックス

「段落メタ」パネル

パネルメニューに「メタ書式の適用 ...」コマンドがあり、これを実行すると、文書内のすべてのメタ書式（段落メタ書式にかぎらず）が適用されます。

このパネルを表示するには、「ウィンドウ」→「段落メタ」コマンドを選択してチェックを入れます。

相互参照と内容生成

JustoFit には内容生成機能がそなわっています。相互参照は生成内容の一種です。

InDesign CS2 には Adobe FrameMaker のような相互参照機能がありませんが、JustoFit のこの内容生成機能を利用することで、InDesign 文書でも相互参照を利用できるようになります。

内蔵生成内容スタイル

プラグインの中には、いくつかの生成内容スタイルがはじめから内蔵されています。

FrameMaker に内蔵されている相互参照書式と極力同じにしております。

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます。

STEP 2 オーバーセットしたセルを調整する

- ①表組みの中のオーバーセットしたセルに対し、長体をかけたり、文字サイズを小さくしたりして、あふれた文字がセル内に収まるよう調整を行きましょう。

下記のルールでは、まず文字に 80%まで長体をかけ、それでもまだ収まらないようなら文字サイズを小さくします。

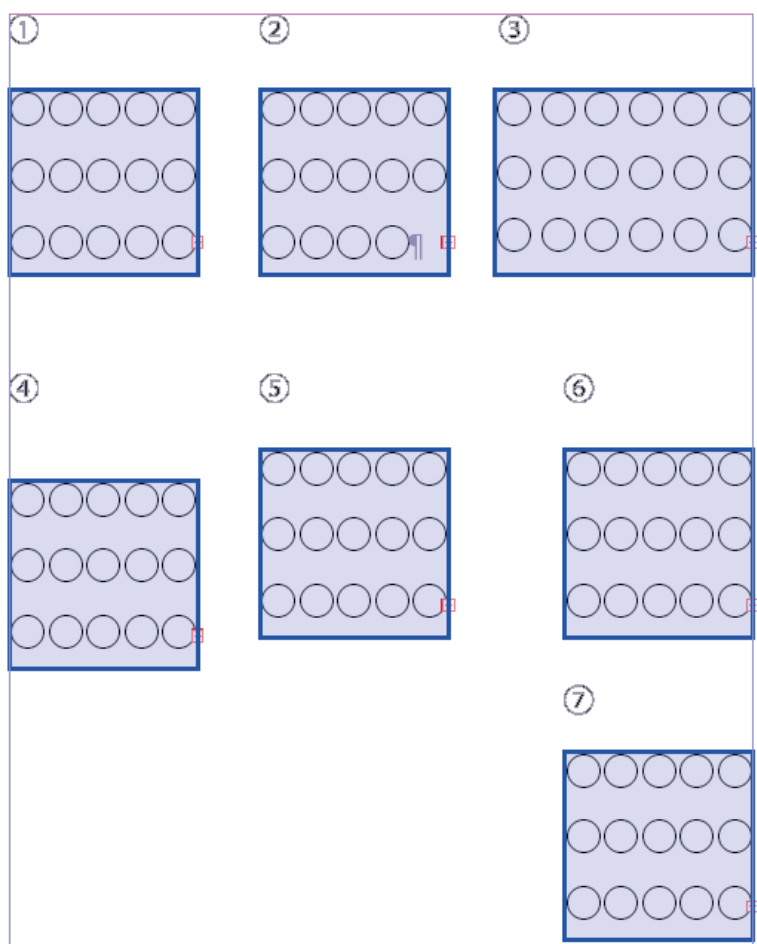
```
.-un-p.cell:-un-turn(1):-un-in-overset-cell
{
    -un-font-stretch-step:-2%;
    -un-min-font-stretch:80;
}
.-un-p.cell:-un-turn(2):-un-in-overset-cell
{
    -un-font-size-step:-1%;
    -un-min-font-size:4;
}
```

◎上記ルールの適用結果

生成内容スタイル名 [#]	生成例 [#]
[基本生成内容] [#]	例:「ユニットバージョンについて」(1533 ページ) [#]
page [#]	例: 1533 ページ [#]
heading [#]	例: ユニットバージョンについて [#]
heading_and_page [#]	例:1533 ページの「ユニットバージョン」 [#]

STEP 3 オーバーセットしたテキストフレームを調整する (チュートリアルファイル 2 ページ目)

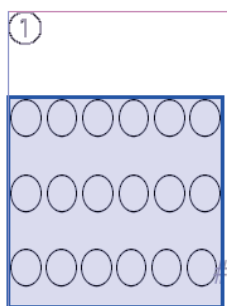
JustoFit_tutorial.indd の 2 ページ目には、オーバーセットしたテキストフレームが並んでいます。このオーバーセットを解消する機能を使ってみましょう。



- ①段落スタイル `body_flow` が適用されている段落が存在するテキストフレームがオーバーセットしている場合に、文字に長体をかける設定です。

```
.-un-p.body_flow:-un-in-overset-story
{
    -un-font-stretch-step:-2%;
    -un-min-font-stretch:70;
}
```

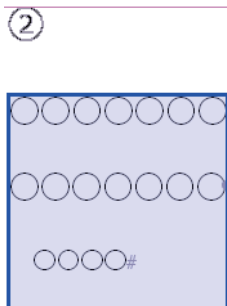
◎上記ルールの適用結果



- ②段落スタイル `body_flow1` が適用されている段落が存在するテキストフレームがオーバーセットしている場合に、文字サイズを小さくしてテキストフレームのオーバーセットを解消する設定です。

```
.-un-p.body_flow1:-un-in-overset-story
{
    -un-font-size-step:-1%;
    -un-min-font-size:4;
}
```

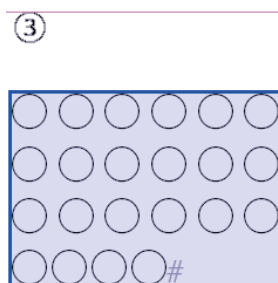
◎上記ルールの適用結果



- ③段落スタイル `body_flow2` が適用されている段落が存在するテキストフレームがオーバーセットしている場合に、文字の行送りを小さくする設定です。

```
.-un-p.body_flow2:-un-in-overset-story
{
    -un-line-height-step:-1%;
    -un-min-line-height:10;
}
```

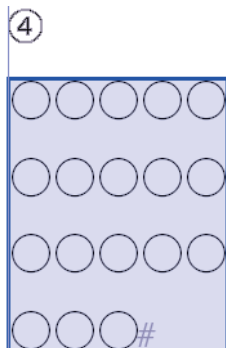
◎上記ルールの適用結果



- ④その `xhtml:class` 属性の値が `frame2` であるテキストフレームがオーバーセットしていた場合、テキストフレームを上方方向に拡大します。

```
.-un-s.frame2:-un-overset::-un-first-frame
{
    -un-align-border-top-step:0.5mm;
    min-height:100mm;
}
```

◎上記ルールの適用結果

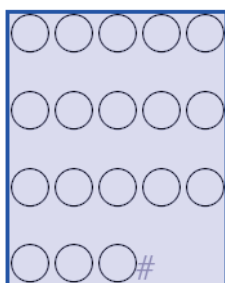


- ⑤ その xhtml:class 属性の値が frame3 であるテキストフレームがオーバーセットしていた場合、テキストフレームを下方方向に拡大します。

```
.-un-s.frame3:-un-overset::-un-first-frame
{
    -un-align-border-bottom-step:0.5mm;
    min-height:100mm;
}
```

◎上記ルールの適用結果

⑤

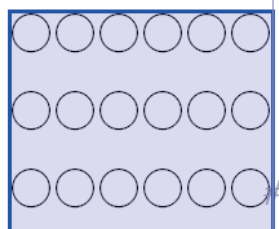


- ⑥ その xhtml:class 属性の値が frame4 であるテキストフレームがオーバーセットしていた場合、テキストフレームを左方向に拡大します。

```
.-un-s.frame4:-un-overset::-un-first-frame
{
    -un-align-border-left-step:0.5mm;
    min-height:100mm;
}
```

◎上記ルールの適用結果

⑥

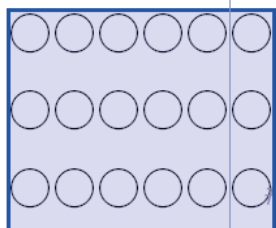


- ⑦ その xhtml:class 属性の値が frame5 であるテキストフレームがオーバーセットしていた場合、テキストフレームを右方向に拡大します。

```
.-un-s.frame5:-un-overset::-un-first-frame
{
    -un-align-border-right-step:0.5mm;
    min-height:100mm;
}
```

◎上記ルールの適用結果

⑦



STEP 4 相互参照を使う（チュートリアルファイル 3 ページ目）

●相互参照を設定する

チュートリアルファイル JustoFit_tutorial.indd に相互参照を設定してみましょう。参照先は同一ファイル内にします。

①ストーリー内にカーソルを置きます。

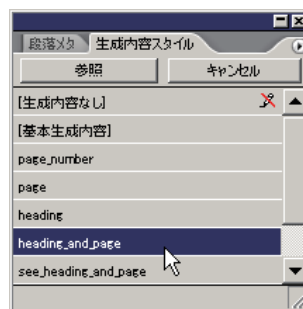
基本動作 2

相互参照と内容生成

JustoFit には内容生成機能がそなわっています。相互参照は生成内容の一種です。

InDesign CS2 には Adobe FrameMaker のような相互参照機能がありませんが、JustoFit のこの内容生成機能を利用することで、InDesign 文書でも相互参照を利用することができるようになります。

②「生成内容スタイル」パネルで「heading_and_page」をクリックします。



すると、カーソル位置に仮テキスト「** ページの「****」」が挿入されます。

基本動作 2

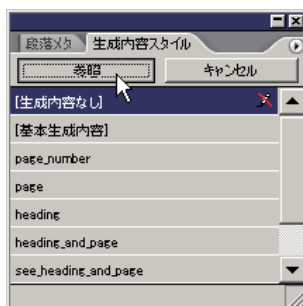
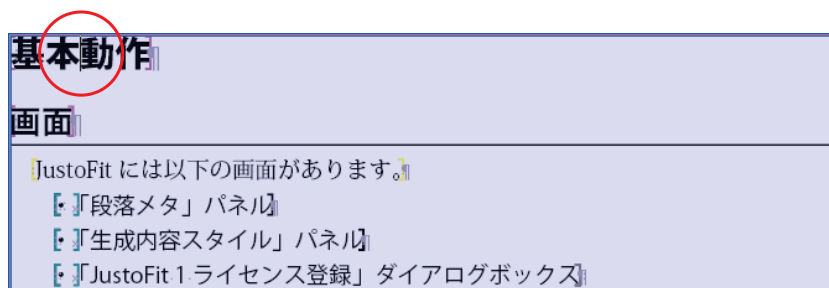
相互参照と内容生成

JustoFit には内容生成機能がそなわっています。** ページの「****」相互参照は生成内容の一種です。

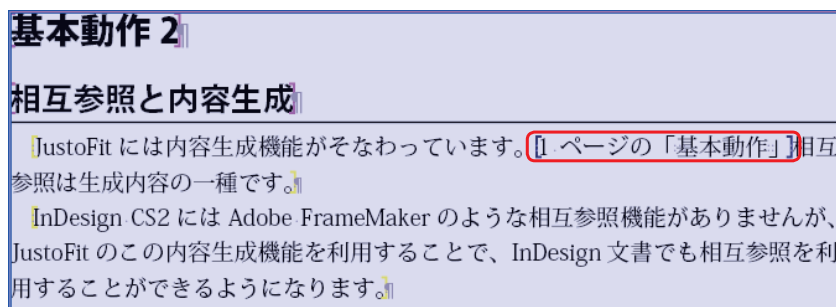
InDesign CS2 には Adobe FrameMaker のような相互参照機能がありませんが、JustoFit のこの内容生成機能を利用することで、InDesign 文書でも相互参照を利用することができるようになります。

③チュートリアルファイルの1ページ目を表示させます。

- ④ 一番大きな見出しの「基本動作」の段落にカーソルを置き、「生成内容スタイル」パネルの「参照」ボタンをクリックします。



仮テキストだった部分が参照先のページ数と段落の文字に置き換わりました。



注：別ファイルに相互参照先を設定する場合も手順は同じですが、相互参照を設定したら、参照先となるファイルを保存してください。

●相互参照スタイルを変更する

相互参照の適用済みスタイルを変更してみましょう。

◎参照元

基本動作 2

相互参照と内容生成

JustoFit には内容生成機能がそなわっています。相互参照は生成内容の一種です。

InDesign CS2 には Adobe FrameMaker のような相互参照機能がありませんが、JustoFit のこの内容生成機能を利用することで、InDesign 文書でも相互参照を利用することができるようになります。

相互参照を作成する

InDesign CS2 にこのプラグインをインストールした状態で、相互参照を作成するには、以下のように操作します。

内蔵生成内容スタイル

プラグインの中には、いくつかの生成内容スタイルがはじめから内蔵されています。

FrameMaker に内蔵されている相互参照書式と極力同じにしています。

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます。②4 ページの「生成内容 / 相互参照を更新する」を参照。

◎参照先 (JustoFit_tutorial_ref.indd)

相互参照

生成内容 / 相互参照を更新する

文書を編集していると、自動生成されたテキスト内容が古くなることがあります。

たとえば、相互参照の参照先の見出しが変わったり、参照先が記載されたページがずれたり、またはページのノンブルが変わったりすれば、参照元のテキストもそれに伴って変えることが必要になるものです。

文書内のすべての生成内容 / 相互参照を更新

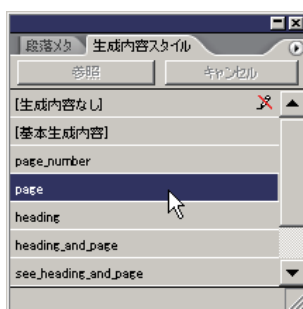
文書内のすべての生成内容（相互参照を含む）を更新するには、その文書を開いた状態で、「生成内容スタイル」パネルの「文書の生成内容を更新」コマンドを選択します。

1つの生成内容 / 相互参照だけを更新

文書内のすべての生成内容でなく、1つの生成内容だけを更新することもできます。

①相互参照にカーソルを置きます。

②「生成内容スタイル」パネルに表示されているスタイルからスタイルを選択します。



すると、次のようにスタイルが切り替わります。

・ page

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます (1 ページ)。

・ heading

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます (生成内容 / 相互参照を更新する)。

・ heading_and_page

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます (1 ページの「生成内容 / 相互参照を更新する」)。

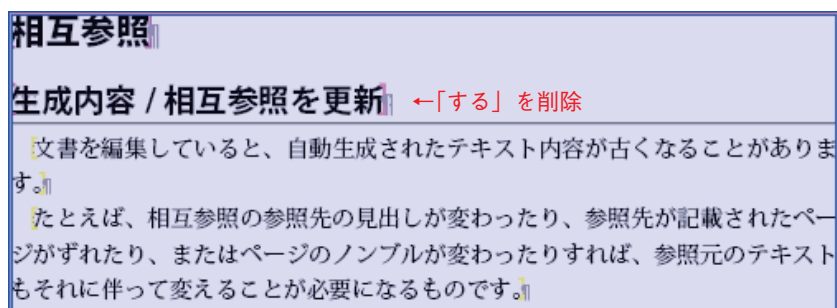
・ see_heading_and_page

これを活用すれば、自分で生成内容スタイルを定義しなくても、すぐに相互参照を作成することができます (1 ページの「生成内容 / 相互参照を更新する」を参照)。

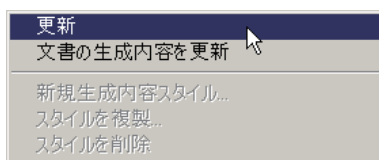
●相互参照を更新する

参照先の文字を変更しても、それが参照元に正しく反映されることを確認してみましょう。

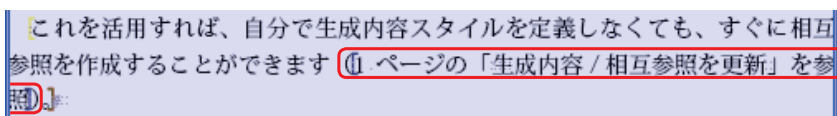
- ①JustoFit_tutorial_ref.inddにある参照先段落「生成内容 / 相互参照を更新する」の「する」を削除します。



- ②JustoFit_tutorial.inddのウィンドウに切り替えたあと、「生成内容スタイル」パネルのメニューで「更新」コマンドを選択します。



相互参照が更新されました。



終わりに

これでこのチュートリアルは終わりです。

JustoFit にはほかにもさまざまな機能があります。使用説明書でお確かめになってください。